

## 「JENESYS2.0」

2015年度中国高校生訪日団第5陣Aコース

訪問日程 平成27年11月24日（火）～12月2日（水）

### 1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2015年度中国高校生訪日団第5陣Aコース計124名が、11月24日から12月2日までの8泊9日の日程で来日しました。（副団長＝周雪英（ジョウ・シュイエン） 福建省福州第三中学 副校長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は4分団に分かれ、東京をはじめ、大阪府、岡山県、滋賀県、大分県、沖縄県、千葉県、京都府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校訪問・交流やホームビジット・ホームステイ等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

### 2 日程

#### 11月24日（火）

成田国際空港より入国

オリエンテーション

#### 11月25日（水）

セミナー：テーマ「日本の社会福祉と地域包括ケアシステム」

昼食交流（日本社会事業大学学生）

第1・2分団：東洋大学訪問

第3・4分団：社会福祉法人東京栄和会なぎさ和楽苑視察

歓迎会

#### 11月26日（木）

第1分団：大阪府へ移動、大阪総合福祉専門学校訪問、道頓堀コナモンミュージアム体験

第2分団：滋賀県へ移動、社会福祉法人グロー視察

第3分団：沖縄県へ移動、琉球大学訪問

第4分団：京都府へ移動、京都産業大学訪問

#### 11月27日（金）

第1分団：梅田空中庭園見学、大阪府立桜塚高等学校訪問・交流

第2分団：滋賀県立国際情報高等学校訪問・交流、ボードレス・アートミュージアムNO-MA 視察

第3分団：沖縄尚学高等学校訪問・交流

第4分団：京都市立紫野高等学校訪問・交流、鹿苑寺（金閣寺）見学

**11月28日(土)**

第1分団：大阪城見学、岡山県へ移動、ホームステイ

第2分団：甲賀の里忍術村見学、民泊

第3分団：首里城公園見学、民泊

第4分団：西陣織体験、ホームステイ

**11月29日(日)**

第1分団：ホームステイ、倉敷美観地区見学

第2分団：民泊、大分県へ移動、杵築城見学

第3分団：民泊、東京都へ移動

第4分団：ホームステイ、東京都へ移動

**11月30日(月)**

第1分団：岡山県立岡山城東高等学校訪問・交流

第2分団：学校法人岩田学園岩田高等学校訪問・交流

第3分団：千葉県立国分高等学校訪問・交流

第4分団：千葉県立君津高等学校訪問・交流

**12月1日(火)**

第1・2分団：東京都へ移動

第3・4分団：明治神宮見学

商業施設視察

歓送報告会

**12月2日(水)**

第1・2・3分団：中央防波堤埋立処分場視察、フジテレビ見学、羽田国際空港より出国

第4分団：羽田国際空港より出国

### 3 写真

	
<p>11月24日 オリエンテーション（東京都）</p>	<p>11月25日 セミナー：テーマ「日本の社会福祉と地域包括ケアシステム」 菊池いづみ 日本社会事業大学社会福祉学部教授（東京都）</p>
<p>11月24日 説明会（東京都）</p>	<p>11月25日 专题研讨班 “日本の社会福祉和地区卫生服务体系” 菊池泉 日本社会事业大学 社会福祉学院教授（東京都）</p>
	
<p>11月25日 東洋大学訪問（東京都）</p>	<p>11月25日 社会福祉法人東京栄和会なぎさ楽苑視察（東京都）</p>
<p>11月25日 访问东洋大学（東京都）</p>	<p>11月25日 考察社会福祉法人 东京荣和会 岸边和乐苑（東京都）</p>
	
<p>11月25日 歓迎会（東京都）</p>	<p>11月25日 歓迎会 中国高校生のパフォーマンス（東京都）</p>
<p>11月25日 欢迎会（東京都）</p>	<p>11月25日 欢迎会 中国高中生的表演(東京都)</p>

	
<p>11月26日 大阪総合福祉専門学校訪問 (大阪府)</p>	<p>11月26日 道頓堀コナモンミュージアム体験 (大阪府)</p>
<p>11月26日 訪問大阪総合福祉専門学校 (大阪府)</p>	<p>11月26日 体験道頓堀 Konamon-Museum (大阪府)</p>
	
<p>11月26日 社会福祉法人グロー視察 (滋賀県)</p>	<p>11月26日 琉球大学訪問 (沖縄県)</p>
<p>11月26日 考察社会福祉法人GLOW(滋賀県)</p>	<p>11月26日 訪問琉球大学(沖縄県)</p>
	
<p>11月26日 京都産業大学訪問(京都府)</p>	<p>11月27日 大阪府立桜塚高等学校訪問・交流 (大阪府)</p>
<p>11月26日 訪問京都産業大学(京都府)</p>	<p>11月27日 訪問大阪府立桜塚高中并进行交流 (大阪府)</p>

	
<p>11月27日 滋賀県立国際情報高等学校訪問・交流（滋賀県）</p>	<p>11月27日 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 視察（滋賀県）</p>
<p>11月27日 訪問滋賀県立国際情報高中并进行交流（滋賀県）</p>	<p>11月27日 考察无国界艺术博物馆 NO-MA（滋賀県）</p>
	
<p>11月27日 沖縄尚学高等学校訪問・交流（沖縄県）</p>	<p>11月27日 京都市立紫野高等学校訪問・交流（京都府）</p>
<p>11月27日 访问沖縄尚学高中并进行交流（沖縄県）</p>	<p>11月27日 访问京都市立紫野高中并进行交流（京都府）</p>
	
<p>11月27日 鹿苑寺（金閣寺）見学（京都府）</p>	<p>11月28日 大阪城見学（大阪府）</p>
<p>11月27日 参观鹿苑寺（金阁寺）（京都府）</p>	<p>11月28日 参观大阪城（大阪府）</p>



11月28日 ホームステイ（岡山県）



11月28日 甲賀の里忍術村見学（滋賀県）

11月28日 家庭寄宿（岡山县）

11月28日 参观甲贺之里的忍术村（滋贺县）



11月28日 民泊（滋賀県）



11月28日 首里城公園見学（沖縄県）

11月28日 民宿（滋賀县）

11月28日 参观首里城（冲绳县）



11月28日 民泊（沖縄県）



11月28日 西陣織体験（京都府）

11月28日 民宿（冲绳县）

11月28日 体验西阵织（京都府）

	
<p>11月28日 ホームステイ（京都府）</p>	<p>11月29日 倉敷美観地区見学（岡山県）</p>
<p>11月28日 家庭寄宿（京都府）</p>	<p>11月29日 参观仓敷美观地区（冈山县）</p>
	
<p>11月29日 杵築城見学（大分県）</p>	<p>11月30日 岡山県立岡山城東高等学校訪問・交流（岡山県）</p>
<p>11月29日 参观杵筑城（大分县）</p>	<p>11月30日 访问冈山县立冈山城东高中并进行交流（冈山县）</p>
	
<p>11月30日 学校法人岩田学園岩田高等学校訪問・交流（大分県）</p>	<p>11月30日 千葉県立国分高等学校訪問・交流（千葉県）</p>
<p>11月30日 访问岩田初中高中并进行交流（大分县）</p>	<p>11月30日 访问千叶县立国分高中并进行交流（千叶县）</p>

	
<p>11月30日 千葉県立君津高等学校訪問・交流 (千葉県)</p>	<p>12月1日 歓送報告会(東京都)</p>
<p>11月30日 访问千葉県立君津高中并进行交流 (千葉県)</p>	<p>12月1日 欢送报告会(東京都)</p>
	
<p>12月2日 中央防波堤埋立処分場視察 (東京都)</p>	<p>12月2日 フジテレビ見学 (東京都)</p>
<p>12月2日 考察中央防潮堤埋処理場 (東京都)</p>	<p>12月2日 参观富士电视台(東京都)</p>

#### 4 参加者の感想（抜粋）

○最も深く印象に残ったのは、日本の社会福祉と地域の包括的ケアシステム制度です。日本の制度はすでに成熟しており、専門の「社会福祉士」や「社会福祉の大学」があるだけでなく、福祉施設にハイテク技術や設備が多く備わっています。しかし、中国では実質的な行動が取られていません。私は、中国は日本の制度を学び、現在の制度を整備するなどできるだけの努力をして問題解決をしていくべきだと思います。

○今回、訪日の機会があり、とても幸運でした。本当の日本に触れ、日本を知ることができたからです。

都市全体の外観ですが、日本の市街地は建物が様々で美しく、独特の風格があります。建て込んではいませんが、雑然とはしていません。道路の両側の植物は見たこともないほどきれいで、色とりどりの植物が整然と植えられています。中国の市街地の風景と違い、どれも日本の都市計画が上手く行っていることを表しています。こうした日本の外観はとても魅力的です。

次に、国民の資質ですが、私たちが東京に滞在中は、引率や通訳の方は私たちのお世話で、大変疲れたことと思います。それにもかかわらず、私たちに細心の注意を払って仕事をして下さいました。毎日早朝ルームカードを集め、私たちがバスから降りる前に荷物をきれいに並べ、バスの中に忘れ物がないか細かく確認してくれました。このようなきめ細かな行動は、中国では見られません。また、見知らぬ人達の礼儀も驚きました。ある友達は、「こんなに多くの初対面の人に挨拶したことはない」と言っていました。私のつたない言葉では自分の気持ちを十分表しきれませんが、全体的に言って、日本人はルールを丁寧に守っていました。他人に対して心から微笑みかけ、友好的に接します。日本人は他人にほどよいやさしさを感じさせてくれます。このことに私は心から魅了されました。

最も印象深かったことは、京都市立紫野高等学校を訪問したことです。日本の高校は中国の高校とは全く違います。制服、習慣、授業風景などが中国と大きく異なっています。最も重要なのは生徒の考え方と人や物事に対する接し方の違いです。バレーボールの授業のとき、私は彼らの親切さに驚かざるをえませんでした。喜びを溢れんばかりに言葉や表情に表わして接するのは、日本独特のここのように思えます。

一生忘れられない9日間を文章では表現しきれません。日本での9日間の経験は、私のこれからの人生を変えるほどの意味がありました。日本の進んだ都市文化を見学し、異国との友情を与えてくれました。

日本へもう一度訪問できることを強く期待しています。

○最も印象深かったのは、日本人の普段の生活を見ることが出来たことです。ホームステイ、大学訪問、テーマ見学、高校での交流など、日本人達はごく自然に私たちに接してくれました。映画、書籍、アニメ、漫画でしか見たことがない日本でしたが、まったく同じでした。日本に来て、何か懐かしいような感じがしました。

今回の訪問を通じて、日本人達は中国のことをほとんど知らないことが分かりました。中国の人達も日本を誤解しているところがあると思います。今後、相互理解を深めて行けるように、そして中日の友好交流に貢献できるようになりたいと思います。

○私たちは1つの文化をどう見るべきか

私たちは1つの文化をどう見るべきでしょうか。文化の本質を知るためには、偏見を持たず、冷静に深く見て穏やかな態度を持つこと、これが中国を出発する前の私の考えでした。ことわざに「自分の目で見なければ分からないが、見ると驚く」と言いますが、日本文化の中に流れる日本人の伝統継承に対する気持ちは、自分の目で見ると信じてられませんでした。

学び続ける姿勢は中国の唐の時代の気風が感じられます。年配者から子供まで、伝統の継承を大切にしていますが、これは中国ではあまり見られません。さかのぼって考えると、学習してきたことに対する感謝の表れなのか、または中国のような過去の流れを否定するような革命闘争を経験していないからなのか、あるいは伝統を継承する中でより高い国民意識を追求しようとしているからなのかも知れません。茶道で30分正座した時は、針のむしろに座っているような辛さを感じましたが、それはその後の一杯のお茶とお菓子によって解消しました。すり足、ゆっくりした動き、お辞儀、戻り歩き、とても穏やかなものでした。複雑な作法に少しばかり飽きた頃、濃厚な抹茶と甘い小豆を味わいました。道を極めるには修行が必要であることをふと悟りました。お茶はすがすがしい香りです。華やかな世界で、浮世は目まぐるしく動いていますが、お茶の香りの中では鏡に映すように自分の心が見えます。継承されているのは決してお茶や作法だけではなく、道であり、また道の修行は人によって違うと私は思います。

1つの文化を見るとき、ものごとの本質を見定めることが必要です。その本質を探って知識を得なければなりません。本質を探るには、考えることも必要ですし、体験することも必要です。認識は完璧なものとなることは永遠にないかも知れませんが、不完全でも修練を続ければ、最後に自分と自分の世界を見ることができるよう。

○一番印象深かったのはホームステイです。私たちをもてなしてくださったのは2人の年配の方でした。家には2人だけしか住んでいなかったのですが、部屋は埃ひとつなくきれいに片づけられていました。外出はあまりしませんでした、とても楽しく交流しました。話が日本に対する中国文化(漢字)の影響に及んだ際、ホストファザーは漢字がなかったら平仮名や片仮名もなく、日本は文字のない国だったかも知れないと言っていました。夜は、大正琴を演奏して楽しみました。ホストファザーもホストマザーも大正琴が弾けるそうです。「きらきら星」と「蝶々」を弾いていただき、とても楽しいひと時を過ごしました。

帰国後、周りの人々に日本の文化と精神を伝えるつもりです。

○一番印象深かったこと、それはまさにホームステイです。私たちのホームステイ先は年配のご夫婦の家庭で、ご夫婦ともとても優しい人でした。特にホストファザーは、風邪を引いているにもかかわらず、私たちを近くの醍醐寺に連れて行ってくれました。ホストファミリーは醍醐寺にまつわる感動的な物語を私たちに話してくれました。

家に帰って、美味しい晩ご飯をご馳走になりました。晩ご飯の後、大正琴を教えてください、私はアコーディオンを弾きました。何度か演奏中にミスをしましたが、ホストファミリーは拍手で私の恥ずかしさを吹き飛ばしてくださいました。また、2階の部屋を用意してくださいました。必要なものは全て準備して下さっていたのです。本当に

ありがとうございました。帰国後、日本がどのような国か親戚や友達に話し、歴史問題による日本人を敵視する感情を和らげられればよいと思います。

○今回の訪問で、最も印象深かったのはホームステイでのおもてなしでした。私たちを受け入れてくれたのは白髪まじりの年配の方です。最初にお会いしたとき、ホストファザーは簡単な中国語で自己紹介してくださいました。食事の後、一緒に地名挙げゲームを楽しみました。

ホストファミリーが用意してくださったご飯やスープ、彼らのあいさつや目配り、これらすべてから深い情が伝わって来ました。言葉の隔たりはありますが、交流の障害にはなりませんでした。

今回の訪問で、私たちは日本の生活を体験し、文化を知ることができました。わずかに数日の交流では日本という国を深く知ることはできないにしても、誤解していたことが分かったことで、友情を深めることが出来ました。

○一番深く印象に残ったのはホームステイです。ホームステイの体験を通じて、私たちは海外の人と友情を結んだと同時に、日本の家庭に入りライフスタイルを見ることができました。ホストファミリーの心温まるおもてなしと礼儀正しさを感じました。ホストファザーに京都の嵐山に連れて行っていただき、美しい自然の風景を感じ楽しむことが出来ました。またホームステイでの生活を通じて、中日の家庭の違いを感じました。風格ある家の造作、日常の暮らし、飲食等を含めて、日本の家庭生活の様子を知ることができました。他国の人々と密接に交流し、深く触れ合っこそ初めてその国が持つ文化の魅力を強く感じ取ることができるのです。私は帰国後日本で感じた人々の親切さと礼儀正しさを重点的に中国の人々に伝えたいと思います。また、帰国後の報告の際には、日本の活動テーマである社会福祉において、地域包括ケアシステムは日本の先端的な科学技術の貢献により整備されていることを中国の人々に伝えようと思います。また、日本では伝統文化とモダンな文化にも触れました。滞在中に見聞きしたことを中国に持ち帰り、両国の文化交流を促進したいと思います。中日の歴史を育んでいくには平和的な交流というのが最も重要です。中日両国民の友情は長く続くことでしょう。

○最も印象深かったことは、日本の高校生の高い資質と課外活動の豊富さです。課外活動において、部活動がプロフェッショナルなレベルに達していることと、そして競技レベルの高さに大変驚きました。豊富でハイレベルな課外活動、さらに合理的に編成された基礎的教養カリキュラム、課外活動に対する取り組みと情熱、勤勉な授業態度、これらを統合することでハイレベルな高校生の育成につながっています。これはまさに国際社会で活躍できる人材を育てることにもなります。

以上が最も印象深かったことです。帰国後私は授業についてではなく課外活動に関して感じたことを周りの人に提案したいと思います。また同学年の生徒に、日本の高校生の課外活動を紹介するつもりです。

以上が訪問中に見聞きして最も印象深かったことで、日本で感じたことを皆に伝えたいと思います。

○今回訪日の機会を得ることができ、感謝いたします。訪日団として来日し、観光客の視点でこの国を見たのではないことを喜ばしく思います。もしも観光客としての訪問であれば、日本について何も知ることが出来なかったことでしょう。日本滞在はわずか9日間でしたが、訪日団としての立場で日本を違う視点で観察することにより、細かく観察できたとは言えないにしても、確実に一定の理解と一般の観光客とは違う収穫を得ることができました。いろいろな感想がありますが、ここでは2つだけ例を挙げることにします。

まず、今回の活動のテーマである社会福祉についてです。菊池いづみ教授の講演を聞き、日本政府が高齢者ケアについて一連の計画を打ち出したことを知り、本当に驚きました。高齢者ケア計画についての精度の高い統計データやグラフがあり、将来の状況まで細かく分析されています。非常に精度の高い計画でしたが、超高齢化社会に対応するにはさらなる困難が起こりうる可能性があると思いました。社会福祉士という職種が誕生し、人材を養成するための大学が創設されました。試験等を何度も行うのは、毎年増加する高齢者に幸せな生活を送ってもらうためです。その後の老人ホーム視察で社会福祉における計画が単に文章上のものとしてではなく、実際に実施されていることを知りました。先進的な「電動バスタブ」、2000人近いボランティア、学生ボランティア…他にも私がまだ見ていない素晴らしいケア施策、ケア施設も多くあるのかも知れません。

もう1つはホームステイのプログラムです。私は幸運にも日本人の中国語教師の家に宿泊しました。彼女は自分の中国語学習クラスを見学させてくれました。とても小さな教室に年齢が70歳に近いお年寄りたちが座っていて、中国語の先生の発音をまねたり、簡単な中国語を一生懸命朗読していました。私が来たのを見ると、喜んで私と中国語で会話し、中国のことを尋ねました。私が皆さんの中国語を理解すると大変喜んでいました。教室を離れるとき、1人のお年寄りが私の手を握って「私は中国人を憎んでいません。私は中国が好きで、中国に行きたいです」と言いました。私は感激で涙がこぼれそうでした。

帰国後、私の伝えたいことはとてもシンプルです。それは、歴史を銘記すべきだが憎しみを根に持ってはならないということです。根に持てば1つの国への理解を妨げる原因となります。先人は人を激怒させるような大罪を犯しましたが、なぜそのことによって21世紀の国民が文化的に同じ流れをくむ隣国の人々と相互理解を絶たなければならないのでしょうか。両国の間に憎しみ、政治的な紛争、歴史的な恨みしか残らないのは何と悲しいことでしょうか。観光のためではなく交流のために中国国民が日本に行き、地方に何日か滞在したらどうでしょうか。そうすることで日本の魅力が分かります。日本の魅力はすべて普段の生活の中にあるのです。

○沖縄でのホームステイの感想をお話しします。私たちは優しい家庭にお世話になりました。まず初めに、ホストマザーは私たちを近くの体育館へ連れて行ってくれました。体育館ではバレーボールのコーチと選手たちが迎えてくれました。バレーボールのルールを教わったり、皆で記念撮影をしたり、なごやかな時間を過ごしました。ホストマザーは、琉球の特徴あるアイスクリームをご馳走してくださいました。

夕食にお寿司を作るため、材料を買いに生鮮食料品店に行きました。私たちは夕食の準備をしながら、いろいろなことを話しました。ホストマザーや息子さんたちとのコミ

コミュニケーションは英語を使いました。

今まで見たことがないような雲ひとつない空の下、紺碧の海の景色の中に自分たちがいることは、初めての経験でした。ホストマザーは「海辺での生活」「鍋の使い方」「縁起の良い飾りの作り方」も教えてくださいました。沖縄での経験は、本当に忘れられないものでした。

一部の人は、中国と日本の間には大きな歴史認識の違いが存在すると思っているかも知れませんが、そのようなことはないと思います。日本のデパートに行った時に気が付いたことですが、人々はエスカレーターの左側に立っています。右側は急用のある人が通れるように空けてあるのです。皆がルールに従えば、トラブルなど起こるはずがありません。私から見ると、「他人に迷惑をかけない」というのは、日本人独特のものであり、中国人が最も必要とする精神です。学校に戻ったら、礼儀正しい国になるように、日本で経験したことを皆に伝えたいと思います。

私は、日本滞在中に人々の温かみと親しみを感しました。日本人は優れた資質が幾つもあり、これも私たちが学ぶべきものです。調和の取れた社会を作り上げるために、「他人に迷惑をかけない」などの小さなことからでも社会で始めて行けば、私たちも実力を発揮することができ、目指している強い国になるという夢も叶うはずです。

○私は、今回、日本政府の招待により来日しましたが、日本滞在は2度目になります。日本の行き届いた配慮のおかげで、日本という国を深く知ることができました。日本もかつて現在の中国と同様に環境問題に直面していたことがありましたが、現在の日本は青空の下にきれいな水が流れています。これは、日本人の真摯な態度と関係があるのかも知れません。日本人は何に対してもまじめで、環境問題への対処もまさにそうです。私はゴミをポイ捨てる日本人を見たことがありません。風に吹き飛ばされてゴミが散らかっているのも見たことはありません。これは現在の中国人が大いに学ぶべき点だと思います。私は中国人も努力さえすれば、良い結果が得られると思います。

次に取り上げるのは、日本人の友好的な態度と親切心です。歴史上の問題があるため、中国人の日本人に対する見方は必ずしも良いとは言えません。しかし、私は日本での実体験を基に本当の日本を中国の人達に伝えたいと思います。ホームステイの時にホストファザーと一緒にお茶を飲み、ご飯を食べたことが忘れられません。訪問先の岩田高等学校及び滋賀県立国際情報高等学校の生徒たちとの交流も忘れません。私は同級生に、隣国には私たち同様、将来を担う明るく活発な若者たちがいることを伝えたいと思います。

日本へ再度訪問できることを期待しています。

○日本での時間は一瞬のうちに過ぎてしまいました。短い8日間の旅が昨日のことにように思えます。数日間の経験は楽しかったばかりでなく多くの学びがぎっしり詰まっています。羽田空港に到着した時から、日本の清潔さと美しさ、礼儀正しさに素晴らしい印象を受けました。日本の礼儀を重視する姿勢は社会に深く浸透しています。細部の詰めが事の成否を左右すると言いますが、細かいところまで気配りする日本のやり方は本当のおもてなしです。日本は決して大きい国とは言えませんが、国民が国際性に溢れていることは素晴らしいことです。私は中国の国民も同じような資質を持っていると信じ

ています。中国は国土が広く物産が豊富です。帰国したら、一部の地域で抱えている様々な問題に対処するために、日本をお手本とするように伝えていきたいと思います。今回日本を訪れた私たちが努力するとともに、国が適切な方針を示すことができれば、中国はさらに強い国になり、日中関係も改善され、若者たちに明るい未来がくると信じています。

○一番忘れがたいのは、ホームステイです。ホストファミリーはとても親切でした。自己紹介の後、部屋に案内してくれました。日本の家は大きく、3世代が住んでいました。贈り物を渡した後、私たちはホストマザーと一緒にご飯を作りました。甘い団子も一緒に作りました。美味しかったです。続いて、女の子2人から「折り紙」「忍者手裏剣の折り方」を教わりました。お返しに私が知っている他の折り方を教えてあげました。

晩ご飯はお寿司でした。実は、お寿司はあまり好きでない食べ物です。しかし、最初の1個は、これまで食べたお寿司と違って、ずっと美味しいことが分かりました。その後、私たちはゲームをしました。名前は分かりませんがとても面白いゲームでした。私たちは3人でしたが、1人はギターが弾け、私は歌が歌えますので、一緒にミニコンサートをやりました。後で分かったのですが、ホストファザーは高校の時、エレキギタリストだったそうです。彼がギターを弾いてくれましたが、涙ぐんでいました。懐かしかったのでしょうか。

○今回の訪問で一番印象深かったのはホームステイです。今回私たちが泊まった家庭は家族が少なく、ホストマザーとおばあちゃんの2人暮らしでした。初めてお会いした後、ホストマザーはスーツケースを車に載せてくれ、車の中ではテレビをみせてくれました。家では、和服を着せてもらい、茶道というティー・セレモニーをしました。晩ご飯は皆で餃子を作りました。野菜を洗い、皮をむき、野菜を切り、肉を味付けし、混ぜて、包んで餃子の完成です。豪華な晩ご飯でした。私たちはおばあちゃんと一緒に席に着き、ホストマザーの「いただきます」の声で夕食が始まりました。自分たちが作った餃子は格別においしく、楽しい晩ご飯でした。食べ終わってから、私はホストマザーと一緒に布団を敷きました。他の2人はお皿洗いを手伝いました。次の日、お別れの時間がきてしまいました。私は目頭が熱くなりました。お別れの時におばあちゃんが杖をついて玄関で私たちを見送ってくれたことが忘れられません。

日本は秩序のある国で、日本の人々は親切で、ホストマザーはとてもやさしく私たちに接してくれたことを伝えていきたいと思います。日本に滞在した思い出、親切なホストマザーをいつまでも忘れません。

百歳まで長生きしてください。また日本を訪問し、再会できることを願っています。親愛なる日本のホストマザーへ。

○中国には「万巻の書を読み、千里の路を行く」という古いことわざがあります。私は遙々海を越えて日本に来て、書籍では知りえない生き生きとした立体的な日本に触れることができました。

はじめに、今回の活動のテーマである「社会福祉」分野について感想を書きます。中国では欧米の国々の社会福祉が最も知られています。しかし、日本も社会福祉の分野で

大いに力を注いでいることが分かりました。私たちは今回、福祉施設やボーダレス・ミュージアムを見学する機会を得ました。日本には、福祉専門の職員が多数働く福祉施設は珍しくありません。また、身体障害者を雇用している工場があり、彼らには給料が支払われています。ボーダレス・ミュージアムには、福祉サービスにあるべき基本的な考えが適用されており、障害者に対する配慮が多く見られます。他の参加者の多くが自閉症の方々が作った作品に驚嘆していました。

日本の高校生との交流では、言葉が通じず文化の違いがあり、私たちは多くの障害にぶつかりました。しかし、お互いに友達になりたいという強い思いは共通のものでした。特に同年代との交流の中で、私はどこが日本文化の魅力かを深く理解しました。日本の文化には特有の秩序、静かさ、奥深さ、温かさがあります。私達はそれらを初めて知りました。ホームステイでは、和服を着て茶道を体験し、ホストマザーと一緒に餃子を作り家事をしました。日本人と一緒に食事を作るという経験ができたことは、家族になったような気がして、忘れられません。訪日団はみな涙を流していました。ホストマザーが私たちに手を振るのを見た時、車から降りたいと思いました。

日本の旅は間もなく終わろうとしていますが、離れがたい思いでいっぱいです。

○今回の中国高校生訪日活動の中で、私にとって一番印象深かったのは滋賀県でのホームステイです。私はG、Kの2人と一緒にAさんの家に泊まることになりました。対面の時、私たちを迎えに来てくれたAさん夫妻は、2人とも白髪まじりの年配の方でした。彼らはとてもやさしく友好的であり、私たちを連れて「てんびんの里 東近江市近江商人博物館」をじっくり見学させてくれました。言葉は通じませんが、身振り手振りを交えてとても打ち解けた交流となりました。私たちが家に入ると、家族が走って出迎えてくれて私たちを歓迎してくれました。彼らはとても温かく大らかでした。その後、中国から持って来たおみやげを贈りました。会話は辞書の助けを借りたり英語を使ったりし、すぐに親しくなりました。翌日は、人生で一番辛いことのひとつ、お別れでした。集合した後、ホームステイ家族のために踊りを演じました。別れの時が来ました。その場で感傷の涙を流さない人はいませんでした。男の私も涙を流しました。わずか1日しか一緒にいませんでしたが、思いは既にとっても深いものになっていました。ホームステイを通して、私は日本の人々の温かさを感じ、日本の伝統文化を知りました。

一生忘れません。

○今回の訪日活動の中で、とても深く私の心に残ったのは社会福祉法人 GLOW です。この施設では、お年寄りと障害者が充実した楽しい生活ができるよう、また自分の努力によって生活できるよう思いやりを持って支援をしています。Kさんは日本の福祉の発展について、初めから整備されていたわけではなかったと説明してくれました。最初は、この施設ではお年寄りに対する介護を実施していましたが、障害者への支援はしていませんでした。15年前から障害者に対する支援が始められました。ここでは、身体や知的障害が比較的重い人も働いて賃金を受け取ります。見学に行った時、自閉症の人が介護士を引っ張ったり叩いたりしているのを目撃しました。介護士と離れたくないことをこのような形で表現したようです。この自閉症の人は、この時働いてはいなかったのですが、Kさんの説明によると、この時間の分も含めて給料をもらっているとのことでした。

た。重症の自閉症の人に対して、特別に二つのプランを定めています。一つはショート・ステイ、もう一つはナイト・ケアで、自閉症の方々のさまざまなニーズに応えるようにするためです。中国でも似たような施設が多くありますが、制度的なことに関して日本に学ばなければならないところがまだまだたくさんあります。私は自分で出来る限りの努力をして成長し、日本の福祉に関してこれからも学び、中国で新たな福祉制度を導入してさらに充実したものにしていきたいと思えます。私は日本の社会福祉関連の企業が中国と協力し大きな収益を上げ、最終的にwin-winの関係を作って行ってほしいと思えます。

○私は日本について矛盾を多く持っているような民族という印象をずっと持っていました。ドイツ人と同じで、真面目かつ厳格なことで世界に名をとどろかせ、同時に大変礼儀正しいということで、とても重苦しいと思っていました。しかし後に、アニメや漫画の作品を通じて日本社会の活発な一面を見てとても好奇心を持つようになり、いったいどういう国なのだろう、自分で行って見なければ分からないだろうと思うようになりました。

とても幸運なことに今回の活動に参加し9日間の日本滞在を通し、日本を深く知ることができました。日本人は礼儀正しく、謹厳かつ細やかであり、私が想像していたのとはほぼ同じでしたが、社会の雰囲気は決して活気がないというわけではありませんでした。

日本の学校はきれいで、活力があるという印象でした。授業の雰囲気はとてものびのびしており、私の心の中で理想とするものでした。日本の生徒は中国の同年齢の人と比較して、よりのびのびしていると思えます。日本の生徒はとても親しみやすく友好的で、彼らとの交流は私の一生で最も貴重な思い出となることでしょう。この経験や日本の家族との交流で、私のこれまでの日本人に対する偏見がとても大きく変わりました。私が訪問したのは老夫婦と2人の子供、3人の孫からなる家庭でした。おばあさんは喜んで私に日本文化を紹介してくれました。おじいさんは熱心に私たちに切り紙の技を教えてくださいました。私は日本人の友情と活発さを深く感じることができました。別れのとき、みんな涙を流しました。中日の間にはまだ多くの問題がありますが、温かい友情もあります。日中関係が友好的になり、手を携えて発展し、共に歩いていくことを願っています。

○今回の訪問で、私は友好的な、真の日本を見ることができました。

日本人のほとんどは礼儀正しく、心からお客様を大切にしていることは実に素晴らしく、温かいおもてなしを受けました。

この9日の間で最も印象深かったのは日本人の人々の礼儀正しさと謙遜の心です。街でもホテル内でも、日本人はみな「他人に迷惑をかけない」ということを自分の行動規範としています。これは素晴らしいことであり、またこのように行動するのはとても難しいことです。道路で不注意で他人に少しぶつかっただけでも、とても申し訳なさそうに「ごめんなさい」と言います。この点は私たちが学ぶに値することだと思えます。私はこの点を中国で伝えたいと思えます。

○幸運にも貴国を訪問できたことは、私の忘れられない思い出です。貴国の心のこもった対応で、いろいろな体験をし多くの収穫がありました。印象深かったのは、1日のホ

ームステイでした。私が泊まった家庭の 60 歳くらいの老夫婦のお気持ちには特別なものがありました。“We don’ t have children, but we really want to have.” と言って私たちを自分の孫娘のように迎えてくれたのです。ホームステイの間、私たちは辞書を使い、英語と身振り手振りによってコミュニケーションをとりました。おじいさんとおばあさんは私たちと一緒に中国の国歌を歌い、岡山の童謡「桃太郎」を教えてくださいました。私はおじいさんに中国の武術を教えました。私が両親とネットでチャットをしたとき、ホストファミリーは本当に中国と中国人が好きなのだ、と言っていました。これは中日両国間の美しい友情だと思います。これがまさに私が帰国した後、一番伝えたいことです。